



令和4年3月

世界農業遺産認定による地域経済効果に関する調査
成果概要

本調査は、世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage Systems、GIAHS）プログラムの目的の一つである「持続可能なかたちで収入を生み出し、システムの産物やサービスの経済価値を高める」ことに焦点を当てるものである。GIAHSの持続可能な保全に向けて、収入を生み出す機会や、認定地域の主要作物及びサービス等の有する経済価値を認識することを目標としている。

なお、限られた時間枠の中での調査であることを鑑み、多面的価値のうち経済的価値に着目して限定して取り組むこととし、まずはシンプルなフレームワークを検討するための取組を行っている。

(1) GIAHS 認定による経済効果の分析に関するマニュアル案の提案

環境経済評価にかかる文献等をふまえると、本調査で検討する「価値」の総体は、利用価値と非利用価値に大別される。一般には利用価値は直接的利用価値、間接的利用価値、そのほか利用価値（オプション価値等）に分類され、非利用価値は存在価値と整理される。本調査の関心は、利用価値のなかでも直接的利用価値と間接的利用価値にあたる。

図表 一般的な「価値」の分類と本調査の関心範囲

価値の種類	価値の分類	価値の概略
利用価値	直接的利用価値	消費可能な生産物として得られる価値 例：農林水産物
	間接的利用価値	消費ではなく間接利用によって得られる価値 例：農林漁業体験
	その他利用価値	将来的な利用可能性を保持していることによる価値 等
非利用価値	存在価値	利用することはないが、存在していることによる価値

注釈） 朱色で囲んだ部分が経済価値として測定可能な効果が含まれている部分である。

なお、利用価値と非利用価値に分類される個別の価値については諸説ある。

GIAHS 認定による経済価値を測定すべき対象は大きく3つ存在する。

①農林水産物に対する消費額

GIAHS が直接産み出している産物やサービスが含まれ、最も基本的な経済価値である。GIAHS 認定において主要な役割を果たしている農林水産物が関心の中心だが、他作物も、GIAHS 認定地域として好意的な効果を楽しめると考えられ、測定対象に含める。

¹ 世界農業遺産は、生産者収入の増加や関連商品・サービスの取扱量増加といった経済価値以外に、生態系の保全、気候変動の緩和、自然災害の緩和や地域住民のアイデンティティと誇りの醸成など様々な価値を有し、認定されることで得られる価値は、非常に多面的なものであることに留意が必要である。

②農林水産物を起点としたバリューチェーンによる生産物に対する消費額

農林水産物を加工、利用する製造業や、販売する卸売業、小売業、外食業などが産み出している財やサービスによる副次的な経済価値である。

前記の農林水産物の産出量の増加に伴う経済波及効果として説明される効果と、GIAHS 認定地域として好意的な効果を楽しんだ結果として生じた経済効果の2種類がある。

③GIAHS に関連した人の移動による消費額

GIAHS の見学、研修や観光資源としての活用に伴って生じた、地域外からの訪問者の一時的移動（観光）による消費額で表現された経済価値である。この消費額は、いわゆる観光消費額として測定される。ここまでの経済価値が生産側からみた価値であったところ、消費額である点に違いがある。

(2) マニュアル案に基づく初期的な分析

わが国の GIAHS である 11 地域の基礎的な統計数値の情報収集を行って分析し、実際に測定する上での課題を抽出した。

①農林水産物に対する消費額が産み出す経済効果

統計の制約から、平成 27 年以降に認定された 7 地域を対象に農業産出額をみたが、そのほかの要因による変動が大きく GIAHS 認定による明確な効果としては測定できなかった。

②農林水産物を始点としたバリューチェーンによる生産物に対する消費額

1) 経済波及効果の測定

各地域の所属する都道府県が作成している産業連関表によって算出できるが、そのためには、①の経済効果の測定が厳密である必要があり、課題となる。

2) GIAHS 地域として享受された産業による効果の測定

GIAHS 地域の地方自治体に対して、聞取を行ったが、該当する効果が存在するとの回答があったのは石川県能登地域のみであった。

③GIAHS に関連した人の移動による消費額

観光消費額は各都道府県の観光統計に記載があるが、GIAHS に関連した訪問であるかの区分が不可能なこと、多くは都道府県単位の数値しか算出されておらず、市町村単位での数値が存在していないことが課題となった。

(3) 将来の経済効果の分析に関する考察

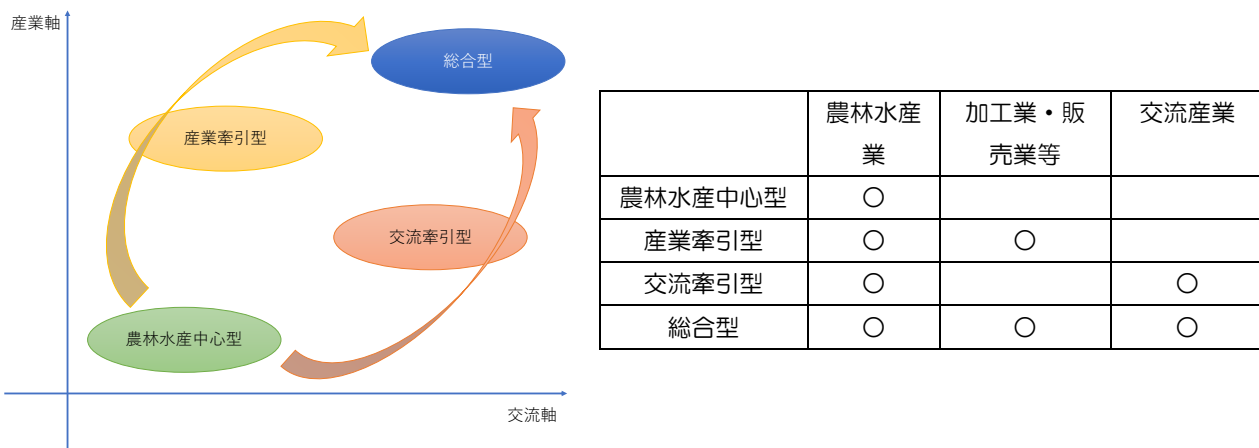
① GIAHS 認定による経済効果の生じるポイント

GIAHS 認定によって、経済効果が生じるポイントは、農林水産業、食産業（農林水産業を起点としたバリューチェーン）、人の移動（観光産業）の3箇所と想定され、それを意識した上での検討が必要となる。

② GIAHS 認定による経済効果の表れ方

GIAHS 認定における経済効果の顕在化は、まずは農林水産業に生じた後、加工業や販売業に展開して地域経済が牽引される場合（産業軸）と、交流産業に展開して地域経済が牽引される場合（交流軸）があり、最終的には全体に経済効果が現れると考えられる。

GIAHS 認定による経済発展の段階図と効果の生じる分野



(4) 日本の GIAHS 認定地に関する総合的な分析

① 地域における GIAHS 認定に対する期待

GIAHS 認定前の時点では、多くの地域が交流産業における認定効果を期待している。もちろん、中核である農林水産業も重要だが、交流牽引型での地域活性化を念頭に置いて、GIAHS 認定を受けているものと想定される。

② GIAHS 認定によって地域が得た効果

認定に対して高い期待が持たれている一方で、統計的に明確な効果は測定できていない。一方で、例は少ないが、産業牽引型の地域においては経済効果に対する実感がみられた。GIAHS は農林水産業を対象としたシステムであるが、その仕組みのなかに、地域経済を取り込んでいる、または組み込んでいる地域では、経済効果を享受しやすいと考えられた。

③GIAHS 認定にかかる課題

GIAHS に対する認知度の低さが、地域で期待した効果に対して実際の効果が得られにくい原因の一つとなっている。これは、個別の認定地域による努力だけではなく、より高い視点から行われるべきものであり、GIAHS のブランド化、そして認知度を高めるためのプロモーション戦略を立案し、実行することが求められる。

(5) 将来の世界農業遺産の活動への提言

①GIAHS 作物の安定生産と供給

GIAHS 認定による経済効果の一丁目一番地として、関連作物の持続的な生産と価格の安定、高付加価値化により、関係者の収入の安定を図る必要がある。

②GIAHS 作物を起点としたバリューチェーン構築

GIAHS は農林水産業という地域の中核産業そのものを遺産としていることから、世界遺産と比しても地域経済との関係性が深く、バリューチェーンの構築によって幅広い分野での経済効果が見込める。

③GIAHS ブランドを起点とした交流の拡大

経済価値の拡大において基礎となるのは GIAHS のブランド力であり、その理解を一般国民に対して浸透させていくことが必要である。

④交流人口から関係人口²、定住人口の拡大に向けた取組

GIAHS は農林水産業を軸として交流人口から関係人口へ、関係人口を定住人口へと、地域と人々の関係性を深めていく役割を果たすことが、期待される。

⑤循環型経済の体現者として取組や研究フィールドの提供

多くの GIAHS の仕組は、循環型経済を社会に実装したものとなっている。GIAHS 認定地域はその体現者として、社会教育やテクニカルビジットにかかるフィールドの提供ができるものと考えられる。

⑥仕組の輸出

これらの仕組そのものを他地域や海外へと「輸出」していける可能性が期待される。それ

² 地域づくりの担い手となる地域外の人々。地域との関係性の深さにおいて、観光客と住民の間に位置する人々を指す概念である。

はいわゆる「〇〇モデル」と称されるものとして、海外でもわが国 GIAHS 認定地域の知名度を高める効果が期待される。

この成果概要は、国際連合食糧農業機関（FAO）が三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社に委託した調査の成果を要約したものである。本報告書は三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社の見解に基づくものであり、FAO の公式見解を示すものではない。

以上